

遺族サポートグループの展開 — 関西遺族会ネットワークの取り組み —

龍谷大学短期大学部

黒川 雅代子

遺族が望む支援とは？

遺族94人の調査で、適切な支援と答えた内容とは？

- 同じ体験者と会う
- 自分の気持ちを表出する機会をもつ

Lehman (1986)

遺族の集い

- 同じ課題をもった人が出会う場
- 体験を分かち合い、助け合う
- 生きづらさを語り、生きていこうとする過程を話し合う。

岩田泰夫（2008）セルフヘルプグループへの招待，川島書店

遺族会がもつメッセージ

- あなたは一人ではない
- あなたはあなたのままでいい
- あなたには力がある

高松里. (2004) .セルフヘルプ・グループと
サポート・グループ実施ガイド.金剛出版

グループで話すことの意味

- 自分の経験をメンバーと共有する
- 自分をストーリーとして語ることの意味 —自分を統合する—
- 感情を取り戻す
- 自分の経験が他の人の役に立つという事実—自尊心を回復する—

高松里. (2004) .セルフヘルプ・グループとサポート・グループ実施ガイド.金剛出版

ヘルパーセラピーの原則 (the helper therapy principle)

- 「援助をする人が最もよく援助を受ける」

Riessman, F.
(1965)

体験的知識

- セルフヘルプ・グループのもつ体験的知識」
- 専門職の持つ「専門的知識」

Borkman, T. (1984, 1990, 2000)

セルフヘルプグループの リーダーの役割

- メンバーへの援助
- アドボカシー
- グループのシステム維持
- メンバーシップの育成
- 組織の成長

Revenson, T. & Cassel, J. (1991)

セルフヘルプグループの リーダーの負担

- 負担大
 - メンバーシップの育成
 - グループのシステム維持
 - 組織の成長
- 負担小
 - メンバーへの援助

Revenson, T. & Cassel, J. (1991)

遺族会の特徴

- セルフヘルプグループとサポートグループが混在して活動している。
- 死別や亡くなった対象を限定しているグループや特に限定していないグループなどもある。
- 病院や葬儀社が亡くなった方を対象としてグループを作っているところもある。

遺族会の現状

- お互いのグループの活動についてはほとんど知らない状況
- 遺族への情報不足

遺族会ネットワークの設立の必要性

- 資源を増やしていく
- 遺族支援団体で協力関係
- 一緒に学び合う
- 自分のグループを客観的にみる
- 単独で出来ない事もネットワークなら可能
- 顔の見える関係で、遺族に情報提供

遺族会ネットワーク設立

- 2011年10月 関西の遺族会19団体で設立
目的
- 遺族会同士の連携や情報交換
- 遺族会同士の協力体制の構築
- 学びあいの場作り
- 新しい遺族会設立支援

年2回の会合


現在36団体が登録

遺族会ネットワークの約束事

- 守秘義務。

※ただし、遺族会ネットワークの活動については、ひろく広報する。また活動団体が限定されない形で、明らかになった遺族の課題や遺族会の活動課題、改善策については公表し、遺族や遺族会活動に寄与できるようにする。

- 会の規模、参加者の人数等について強調しない。
- 批判しない。
- 一方的なアドバイスはしない。
- 各会の活動を尊重し合いながら、協力関係を深めていく。
- 遺族会ネットワークの活動については、参加者全員で協力しながらおこなう。



特別なつながりのある方と死別されたあなたは、寂しさ、悲しみ、後悔、怒りなどで胸がいっぱいになったり、食欲がない、眠れないといった身体の変化に戸惑っていらっしゃるかもしれません。同じような体験をしている人たちとの出会い、話をすることで、あなたの気持ちが少し柔らかくなったり、お別れを受けとめるためのヒントが得られるかもしれません。お一人おひとりが、安心してご自身の体験を語り、整理する場と出会っていただけることを願っています。

遺族会を探す

[遺族会一覧](#)[お知らせ](#)

●亡くなられた相手

- こども
- 親
- 配偶者

●亡くなられた理由

- 自死
- 病気
- 事故/天災

●開催地域

- 大阪府
- 京都府
- 兵庫県
- 滋賀県

2015.03.01

ホームページ開設

[会員向けページ](#)

今後の活動の展開の可能性

- 合同のファシリテーター研修
- 合同学習
- 社会へ啓発
- 全国の遺族会とどうネットワークをつなぐか